

前衛

反戦・反安保・反帝国主義政策の
反政府実力闘争をのりこえ
工場占拠・二重権力・武装蜂起
・帝国主義打倒の革命闘争へ

紙面紹介

共産主義者党
規約草案 3面

七三春闘を
いかに闘うか 5面

自動車戦線報告 2面

新井さんの
その後の闘い 2面

自治体戦線の闘い 4面

京浜労働学校開設 4面

世界通貨危機の意味 6面

前衛社

連絡先 振替「東京44589番前衛社」
千代田区飯田橋3-1-6飯田町ビル
前衛社 TEL (264) 5079
購読料(郵共) 1部60円・12回600円

発行人 高橋一雄
毎月一日発行

首都圏行動委員会連合結成

3.18決起集会に結集せよ!

大衆的職場行動委運動を 激動の春闘におし出せ!

首都圏行動委員会連合代表者事務局会議 (準)

全国の闘う労働者諸君！
とりわけ首都圏の革命的労働者
諸君！

われわれ首都圏行動委員会連合
代表者・事務局会議(準)は、き
たる三月一八日、首都圏行動委員
会連合結成・決起集会を開催する
ことを決定した。

激動の七三春闘の中にあつ
て、工場占拠ゼネストの勝利をと
り、労働者階級の解放をめざす
新たな潮流の登場を内外に明かに
することを決意したのである。

戦後の政治経済体制の行きつま
りとして、依拠した既成の勢力の
破綻が指通されてからすでに久し
い。だが、わが日本階級闘争の中
で、真に現状を打開する力を、社
会的に定着させることに成功して
きた部分が存在したであろうか。

権力闘争を運動として持続させ、
発展させる方向が打ち出されてき
たであろうか。工場・職場闘争を軸
に、地区反乱をめざす地域的結合
は、かちとられてきたのだろうか。

答えは、いずれも否である。わ
が行動委員会運動は、これらの課
題を果すために苦闘の道を行ん
できた。その軌跡は、組合主義的・
議会主義的、そして、街頭主義的
な運動構造に根ざってきた日本階
級闘争の空白を埋め、危機と反乱
の時代をみずから切りひらこうと
する過程であった。

全国の闘う労働者諸君！

首都圏の革命的労働者諸君！

われわれは、なほ微弱なりとい
え主要な戦線での拠点工場・拠
点職場において行動委運動の実体
的な力を振り出すことに成功し
てきている。また、その成果を主
要な地区における地区行動委連合
の確立として実らせてきた。そし

て今や、首都圏行動委連合として
の巨歩を踏み出す時に立っている

わが労働者行動委運動 の発展とその教訓

最大の成果は、革命的権力闘争
を推進する主体的な力と、そのた
めの統一戦線を組織する力をもつ
た行動委運動の運動構造をわれ
れが手中に収めつつあるというこ
とにある。

わが行動委員会運動の出発は、
七〇年安保をめぐる日本階級闘争
の高揚期であった。われわれは、
世界危機の開始と大衆反乱の登場
の時代に、階級闘争が突入したこ
とを確認した。フランスの「〇〇
〇万プロレタリアートの工場占拠
ゼネスト、日本の日大・東大にお
ける学園バリケード占拠闘争が、
まさしく、それを指し示したので
ある。以降われわれは、一歩一歩
ではあつたが、打倒すべき帝国主
義権力の全体構造を解明すること
および、それと攻防戦をくりかえ
しつつ、萌芽的に形成される権力
を真のプロレタリア権力として発
展させていく過程として運動を開
展することに集中してきた。

戦後体制が動揺から崩壊の端緒
につく中で、日本の帝国主義権力
は、基本的に「警察国家」体制へ
と移行した。そして、中央集権的

て、階級闘争における政治力学を
はらんでいたのである。

こうして、われわれは運動に着
手した。秋葉原における神田合同
労組、菱和自動車、全通大崎など
一連の闘いは、われわれが手がけ
た最初の職場行動委運動であつた

このいわば第一期の行動委員会運
動は、未組織労働者の大胆な結集
対戦実力闘争の展開、都市反乱
との結合、組合主義勢力との対決
などいくつかの重要な戦績を挙げ
ることに成功した。だが、同時に
その後正しく教訓化されたこと
運動の地域的展開計画、攻略目標
の設定が不明なままであつたし行
動委員会とそのヘゲモニーにあ
る組合との関係が未分明である
という重大な欠陥をもつていた。し
たが、行動委員会の建設をその
ものが果せなかつた。弾圧下の
闘争が後退することによって、展
開力を失つた行動委員会が崩れて
しまつたりした限界が露呈された
のである。直後に開始された日電
闘争は、そうした限界を克服す
べしとするものとして進められた
当初から強固に結束した部隊の直
接行動によつてはり起されたこ
の闘いは、七〇年々末闘争を頂点
として、対戦実力闘争を軸にし
て、対戦実力闘争を軸にして
争うべき勝利と支えられ、各
地区労働学校の発展や地区労働者
新聞の発行等によつて質的強化を
ともないながら推進されているの
だ。

これら困難は、職場大衆闘争
の貫徹によつて打開の道が切りひ
らかれた。現在、われわれが正し
く推し進めている路線である。立
川スプリング(日産系自動車部品
工場)や川崎郵便局での先進的な
行動委運動の前進、再生した日電
闘争による新たな闘争は、その
点でゆたかな成果をあげてきた。

職場の過半を制する正当な要求に
基づく公然たる反合反職闘争、統
一戦線の形成によつて組合内急進
派をもまき込んだ川崎局の対戦制
・三組解体闘争、都労委等を最大
限活用しつつ、二組中核の実力解
体、あるいは、日電行動委連合に
よる攻囲の戦線拡大、等々の闘い
は、職場大衆闘争の高揚、そして
職場行動委員会の建設と強化にむ
かつて着実に進んでいる。しかも
これらの闘いは、地区行動委連合
によつてしっかりと支えられ、各
地区労働学校の発展や地区労働者
新聞の発行等によつて質的強化を
ともないながら推進されているの
だ。

れと前後しながら、われわれは七
〇年闘争にたいする根底からの総
括の結論として、革命的権力闘争
を権力闘争を軸に構築すること
、それゆえ、学園ロックアウト粉砕
の遊撃戦できたえられた戦士を工
場と地区に大きく再配置すること
を実践した。その過程でわれわれ
はもう一つの壁にぶつかった。反
乱の直線の追求、地下行動委員会
への直線的な結果をめざした活動
は、運動としての確固たる基礎を
欠くからいがあつたのである。現
在の工場制度は、そこまで支配力
を揺らいでいないし、インフレ
ションの世界的進行下での合理化
攻撃という、今日の危機の性格も
考慮に入れられなければならないか
つた。

共産主義者党規約草案発表(二面)

(一) 二面へつづく

自動車労働者は 工場労働者の先頭に起て

去る二月八日首都圏の自動車産業において行動委員会運動を展開している、日産、日野、三菱、立川スプリング等の十数の行動委員会、一八名の工場代表が結集し、首都圏自動車戦線の結成に向けて真剣にかつ活発に討論がなされた各工場・職場における戦線の現状が相互に出されるなかによりも明らかになったものは組立工場を軸とする、販売から部品工場までの合理化攻撃がうきほりになったこと、同時にそれは職制・御用組合の攻撃が自動車総連として労働戦線統一の名による攻撃が産業全体にわたって展開されていることも具体的に確認された。

またそうした戦線統一の急先歩である日産・トヨタの本工場労働運動の拡大が自動車産業の販売・本組立・部品加工の主要な部門の不均等の中で必ずしも整合してないことが実証された。

この三菱の如き重機械工業を母体とし、その一部門としての自動車工業への発展の矛盾、さらに外資提携・導入を転換点とする産業の再編がもたらす企業利害の矛盾が、そのまま自動車総連体制の矛盾の底流としてあり、それがために産別結果も名ばかりで、結局組合の空洞化をより露骨に進めることになっていくことも明らかとなった。

しかも労働者の密集している工場での矛盾はとりわけ中堅の部品工場において顕在化しており、ニセ時短・M.I.C.I.E合理化・職務給導入等の攻撃がかけられていく。そしてそれに対する職場労働者の一部職制や、管理部門・間接部門労働者を含むしどろい抵抗が展開され、部品工場労働者の反合

闘争戦線が焦点になっていること、現代の労働者自身の解放闘争の路線を明らかにした。

それは対して本工場労働者、特に日産機動隊の恒常体制、御用組合のほりめらしたスパイ密告体、資本の青年労働者の使、とが要請されている。捨てた中で、「屈服か逃遁」という困難な中で闘いが全員の共通の壁として提起された。

また、工場における合理化の攻撃とは異質な型での販売部門の合理化が、金融部門の集中化等を軸に全国の販売地区ブロック再編合理化攻撃に反撃するには資本・御用組合も合わせてコンピュータの導入、御用組合幹部をまとめる集中した体制によるむきたし合理化が、モチと内容が問われる。産別戦線は労働者に不均質な産業体系をもちながらエンジゴに展開されている。者自身が全面的な政治能力を獲得する。また自動車労働者自身は六九の自分自身の闘争の深化、ほりおこして七〇年の第一組合の闘争を通じ、最大限の力をそそぐものでなければならぬ。このことにより工場最も進んでいた本工場は総選挙にみられてきたが、行動委員会を中核とする第一組合委員のしどろい抵抗は第一期行動委員会運動の徹底的な総括を教訓し、闘争の再建を可能にした。この中でも三菱協会の自動車総連オサザバー(加藤)実体は加藤できるようなものでない。等)のなかで組立工場労働者との連帯、三菱全体のなかで闘う連帯を追求することなどが確認された。

問「東芝レイ・オ・パツクでの契約にひき続き一ヶ月との契約解除闘争を闘われているというところですが、東芝レイ・オ・パツクはカドム電池の製造で、私はその頃社会的な問題になっていました。この頃社会的な問題を知っていたか」とお聞きしたいと思います。

新井「東芝レイ・オ・パツクというのは名前の通り東芝系列の乾電池専門工場で、資本金一億円です。同じ職場に何人か肩を腕がしびれたり、痛くなったたりした人達が、社内食堂などでビラをまいたり、朝礼で言を訴えたり、職制を追究したりしましたが、工場長

行動委員会運動の総括及びフランス、イタリアでの特にルノー、フィアットの労働者の闘いを総括し、産業全体の総括をたて運動を開始した。こうした全体的計画の中で職場闘争のほりおこし、職場闘争の主体として具体的な産業全体の合理化攻撃をうけとめ、主体的に判断しえるようになった。こうした中で、とりわけ

去る二月八日首都圏の自動車産業において行動委員会運動を展開している、日産、日野、三菱、立川スプリング等の十数の行動委員会、一八名の工場代表が結集し、首都圏自動車戦線の結成に向けて真剣にかつ活発に討論がなされた各工場・職場における戦線の現状が相互に出されるなかによりも明らかになったものは組立工場を軸とする、販売から部品工場までの合理化攻撃がうきほりになったこと、同時にそれは職制・御用組合の攻撃が自動車総連として労働戦線統一の名による攻撃が産業全体にわたって展開されていることも具体的に確認された。

またそうした戦線統一の急先歩である日産・トヨタの本工場労働運動の拡大が自動車産業の販売・本組立・部品加工の主要な部門の不均等の中で必ずしも整合してないことが実証された。

この三菱の如き重機械工業を母体とし、その一部門としての自動車工業への発展の矛盾、さらに外資提携・導入を転換点とする産業の再編がもたらす企業利害の矛盾が、そのまま自動車総連体制の矛盾の底流としてあり、それがために産別結果も名ばかりで、結局組合の空洞化をより露骨に進めることになっていくことも明らかとなった。

しかも労働者の密集している工場での矛盾はとりわけ中堅の部品工場において顕在化しており、ニセ時短・M.I.C.I.E合理化・職務給導入等の攻撃がかけられていく。そしてそれに対する職場労働者の一部職制や、管理部門・間接部門労働者を含むしどろい抵抗が展開され、部品工場労働者の反合

闘争戦線が焦点になっていること、現代の労働者自身の解放闘争の路線を明らかにした。

それは対して本工場労働者、特に日産機動隊の恒常体制、御用組合のほりめらしたスパイ密告体、資本の青年労働者の使、とが要請されている。捨てた中で、「屈服か逃遁」という困難な中で闘いが全員の共通の壁として提起された。

また、工場における合理化の攻撃とは異質な型での販売部門の合理化が、金融部門の集中化等を軸に全国の販売地区ブロック再編合理化攻撃に反撃するには資本・御用組合も合わせてコンピュータの導入、御用組合幹部をまとめる集中した体制によるむきたし合理化が、モチと内容が問われる。産別戦線は労働者に不均質な産業体系をもちながらエンジゴに展開されている。者自身が全面的な政治能力を獲得する。また自動車労働者自身は六九の自分自身の闘争の深化、ほりおこして七〇年の第一組合の闘争を通じ、最大限の力をそそぐものでなければならぬ。このことにより工場最も進んでいた本工場は総選挙にみられてきたが、行動委員会を中核とする第一組合委員のしどろい抵抗は第一期行動委員会運動の徹底的な総括を教訓し、闘争の再建を可能にした。この中でも三菱協会の自動車総連オサザバー(加藤)実体は加藤できるようなものでない。等)のなかで組立工場労働者との連帯、三菱全体のなかで闘う連帯を追求することなどが確認された。

問「東芝レイ・オ・パツクでの契約にひき続き一ヶ月との契約解除闘争を闘われているというところですが、東芝レイ・オ・パツクはカドム電池の製造で、私はその頃社会的な問題になっていました。この頃社会的な問題を知っていたか」とお聞きしたいと思います。

新井「東芝レイ・オ・パツクというのは名前の通り東芝系列の乾電池専門工場で、資本金一億円です。同じ職場に何人か肩を腕がしびれたり、痛くなったたりした人達が、社内食堂などでビラをまいたり、朝礼で言を訴えたり、職制を追究したりしましたが、工場長

解雇撤回をめざす 新井さんのその後の闘い

首都圏行動委員会 連合の中での 産別戦線の意義

首都圏連合一地区連合の組織形態は七〇年闘争以降の工場・職場での闘争の性格に根本から規定されている。六八年以降街頭進軍主義と組合急進主義が無効となることにより工

中堅部品工場が自動車産業全体にもつ決定的比重の大きき、それに相反する合理化のたぐい連れ、御用組合の支配能力の弱さが労働者支配の弱環を形作っていることを確認し、中堅部品工業をめぐる反合闘争を焦点に闘いを推し進めてきた。その内容はニセ時短・M.I.C.I.E合理化・産業長システム導入・仕事給給給給導入の攻撃に対する闘いであった。既に仕事給導入、産業長システム導入を今年度はおくらせざるに至った闘いも生まれている。

当面の焦点は労働戦線全体で形成されている反合闘争の中で、そのための大衆的闘争の飛躍の充実化もまた当面の焦点である。

行動委員会運動の全面的プランの中で、自立した組織で闘うことを決意している部分との結合をはかることも重要である。われわれはこれをなすことには全力を尽すつもり。

現在の帝国主義世界経済の危機は、明らかにアメリカ帝国主義の新経済政策と称する閉き直りのまきかえしにより促進されている。国際通貨の基軸国としての「責任」を放棄したニクソンは、ドルのたれ流しを公然と認め、ヨーロッパのみならず、日本にも、ほう大なドル外貨の蓄積をもち、インフレーションの輸出に精出して、日本の卸売物価格は、昨年後半からはつきり上昇し始め、今でははなはだのまきかえしとなっている。加えて、日本資本主義が一度にわたる「高度成長」を経て向かえた「成熟」は、寡占競争の時代から、鉄鋼カルテルにみられるようなカルテル体制によって、素材部

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

首都圏行動委員会連合に 総括集せよ

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

当面の焦点と 今後の課題

当面の焦点は労働戦線全体で形成されている反合闘争の中で、そのための大衆的闘争の飛躍の充実化もまた当面の焦点である。

行動委員会運動の全面的プランの中で、自立した組織で闘うことを決意している部分との結合をはかることも重要である。われわれはこれをなすことには全力を尽すつもり。

現在の帝国主義世界経済の危機は、明らかにアメリカ帝国主義の新経済政策と称する閉き直りのまきかえしにより促進されている。国際通貨の基軸国としての「責任」を放棄したニクソンは、ドルのたれ流しを公然と認め、ヨーロッパのみならず、日本にも、ほう大なドル外貨の蓄積をもち、インフレーションの輸出に精出して、日本の卸売物価格は、昨年後半からはつきり上昇し始め、今でははなはだのまきかえしとなっている。加えて、日本資本主義が一度にわたる「高度成長」を経て向かえた「成熟」は、寡占競争の時代から、鉄鋼カルテルにみられるようなカルテル体制によって、素材部

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

反合職制闘争を軸に 大胆な職場大衆闘争の展開へ

門の国内価格を大幅にひきあげてくる。さらに、自民党の地盤低下におののく田中内閣はインフレーションによってその保持に努めている。インフレーションは労働者階級人民の生活に極度なまでの犠牲を強いる新たな構造的攻撃になっているのだ。また、七二・七三年にわたって、階級闘争の基本軸となつた国鉄等の反合闘争にみられるように、階級闘争の合理化攻撃は、一層、全体化されつつある。国鉄、郵政、電々、あるいは自治体等六〇年代に残された部門での合理化

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

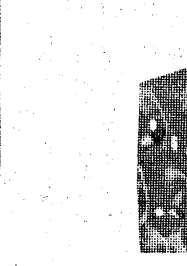
われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。

われわれは、行動委員会運動を全国的な政治潮流へとおしあげる第一歩として、地区行動委員会を基本軸にした首都圏行動委員会を確立しようとしている。

われわれは、この中で、公労協戦線の闘いを突出させつつ、各地の主要拠点工場の攻略計画に基づいた工場闘争の展開とその地域的結合を計ってきた。そして今それらを首都圏全域での連帯の下で更に飛躍させようとしているのだ。この勝利の前進のうちにのみ全国の主要工場地帯での闘いの牽引が可能となる。



首都圏行動委員会連合に総括集せよ！

共産主義者党規約草案発表にあたって

中央委員会

全党の同志諸君！

中央委員会はここに党内外に
規約草案を発表する。
われわれは、さきの第二回全
国協議会において、工場闘争路線
への転換によってわが党の歴史の
転機となつた七一年一月第一回全
国協議会以降の党活動を全国的
に総括し、強固な意思統一をもち
つつ、そして労働戦線をはじめ
各戦線に突いた橋頭堡を築き、ま
、近中に予定されている第二回
党大会において、党名を定め、党
規約と戦略戦術テーゼを決定して
、激動する日本階級闘争の戦場に
日本革命を担う唯一の前衛党であ
ることを公然と宣言して、登場す
ることを確認した。

この規約草案は、第一回全協
議会が、中央委員会の提案にもと
づいて、第二回党大会のための草
案として採択したものである。
党規約は、革命党の組織とその
運営の基礎であり、党生活の基礎
である。
正しい党規約をもつことは、正
しい綱領をもつことと共に、革命
党が革命党であるための必須の条
件なのである。
したがって、わが党がこの規約
草案を発表し、全党的討議を
とおして正式の党規約を確定する
作業の最終段階に入ったことは、
わが党がこれまでの党組織として
の不正常な状態から抜け出し、真
の革命党として飛躍する決定的一
歩を踏み出すこととして、これを
意味する。

この規約草案は、改めてい
うまでもなく、結党以来四年余のわ
が党の組織総括、しかもはげしい
党内論争をめぐり、党内論争をとお
した組織総括の文字通りの結晶で
ある。
この間の党内論争をめぐり、党内
論争は、一方、コンメンタル型
の党がその組織原則とした民主集
中制に含まれるブルジョア性を、
そしてそれが党官僚独裁を導く危
険を鋭くえき出し、きびしく退
けた。と同時に、他方で、それを
止揚するものとして提起された、
いわゆる「反乱組織論」が、党と大

衆組織の区別をあいまいにしたばかりか、党にとつて死活的指導部
の地位と役割、ひいてはその指導
責任をあいまいにし、実践的には
ねばり強い指導による全党の意思
統一の努力を欠いた。最高原則に
よる「党運営」という警告をまね
たことを鋭くえき出し、きびし
くしぞげた。
こうした党内論争の成果をま
え、共産主義者党規約草案は、1
前文で、労働者階級の歴史的使命
と労働者階級に対する独自の自
務を明らかにし、党の「党の党
風、組織の基礎、規律、運営は、
すべてこの目的と任務によつて完
徹され、規定される」とのべ、「
大衆との結合と不断の整風」を最
高原則として宣言している。そし
て、2の運営の原則を革命的集
中制と表現している。それは、革
命的なヘゲモニーをもつ指導部の指
導に基づく党員の自発性、創造性
の党への集中、いかにすれば革命的
な民主集中制を表現するものとし
て、スターリン批判とも現わ
れた党内における少数派の権利を
認めよという民主化要求とは根本
的に異なり、意思決定と執行のブル
ジョアの分離の真の止揚、そのよ
うなものとして「コンメンタル組
織原則の真の止揚、意味するも
のに他ならぬ。

全党の同志諸君！
第二回党大会に向け、いま豊
富な経験に裏づけられた諸君の全
英知を傾けて、この共産主義者党
規約草案を、討議せよ！そしてた
んに討議するのみでなく、これを
基礎としてたんに党体制・党生
活を整備せよ！
さうして、党外にあつて日本革
命のために闘う共産主義者諸君！
革命党への参加なくして、共産
主義者としての真の自立はありえ
ない。諸君もまた同時に共産主義
者規約草案を検討せよ！そし
て、われわれとともに手をたさ
えて、革命党建設の共同の事業を
なしてゆけよではないか！

衆組織の区別をあいまいにしたばかりか、党にとつて死活的指導部
の地位と役割、ひいてはその指導
責任をあいまいにし、実践的には
ねばり強い指導による全党の意思
統一の努力を欠いた。最高原則に
よる「党運営」という警告をまね
たことを鋭くえき出し、きびし
くしぞげた。
こうした党内論争の成果をま
え、共産主義者党規約草案は、1
前文で、労働者階級の歴史的使命
と労働者階級に対する独自の自
務を明らかにし、党の「党の党
風、組織の基礎、規律、運営は、
すべてこの目的と任務によつて完
徹され、規定される」とのべ、「
大衆との結合と不断の整風」を最
高原則として宣言している。そし
て、2の運営の原則を革命的集
中制と表現している。それは、革
命的なヘゲモニーをもつ指導部の指
導に基づく党員の自発性、創造性
の党への集中、いかにすれば革命的
な民主集中制を表現するものとし
て、スターリン批判とも現わ
れた党内における少数派の権利を
認めよという民主化要求とは根本
的に異なり、意思決定と執行のブル
ジョアの分離の真の止揚、そのよ
うなものとして「コンメンタル組
織原則の真の止揚、意味するも
のに他ならぬ。

共産主義者党 規約草案

前文

共産主義者党は労働者階級の
前衛党である。
労働者階級は、すべての労働人民衆をひき
いて、帝国主義の国家権力を根絶する種々の
支配権力を全世界的に粉砕し、労働者階級の
独裁を樹立すること、更にすべての階級搾取と階
級支配を廃絶し、世界共産主義社会——各成員の
自由で自覚的な結合を可能にする人類の目的意識
的共同体を実現することを全人類に対する自らの
歴史的使命とする。

共産主義者党は、この労働者階級の普遍的、世
界的な任務を常に最も鋭く代表し、全ての階級闘
争をこの歴史的使命の遂行に向けて組織し、指導
し、おしよめることを労働者階級に対する自らの
独自の任務とする。
共産主義者党の党風、組織の基礎、規律、運営
は、全てこの目的と任務によつて貫徹され、否定
される。

共産主義者党は、現代帝国主義の不断の支配・
攻撃に対し不屈に英雄的に立ちあがる労働者人民
大衆と固く結合し、指導し、共に闘わなければなら
ない。
共産主義者党は、また、自らの革命的健康を保
つために、ブルジョアの諸階級が組織内部に流入
することによる最大限の警戒心をもち、たえず党風
をたたくていかなければならぬ。

共産主義者党は、党の目的のもとに結果し、党
の定めたる綱領・規約にもとづき、革命の勝利のため
に、党に献身する共産主義者によつて構成される。
党員は党の目的に忠実であることを要求される。
それは、第一に、決意を固め、犠牲をわけて、
党の任務の遂行に献身することであり、第二に、
党の革命的健康を保つため、不断に、かつ自発的
に、党の運営に参加することである。すべての党
員がこうした任務にたがふことにはならない。

党は共産主義者党の真の目的と一致し、労働者
階級の武器となる。
日本帝国主義の国家権力を打倒するために、党
組織は、工場占拠、ソビエト革命の戦略に基き、
工場細胞を基本とする組織であることを第一の
原則とし、更に中央集権国家となつたかに耐え
うる全階級であることを第二の原則としなければ

ならない。第三に、党組織は、革命的権力闘争の
指導部として、非合法党であることを大前提とし
、合法・非合法のあらゆる分野での活動を担いつ
るものでなければならぬ。
共産主義者党の党員は、全生涯をかけて、みず
からに課せられた任務を果し、万難を排して、革
命の勝利を闘い続けなければならない。

一 党の名称
共産主義者党と称する。
二 党員
共産主義者党の綱領・規約を認め、党の一定の
組織に属して積極的に活動し、党の規律を守り、
党費を納める者は、党員として受け入れられる。
入党を申請する者は二名の党員の推薦をうけて
細胞に志願書を提出する。
党員の承認は、党細胞が行い、地区委員会が確
認する。

三 党の構成
党の構成は、工場細胞を中心とする諸細胞を基
礎とした全階級として実現される。
党は、党の任務の遂行と党組織の発展に応じて
、細胞中央組織の間に各級の党委員会、すなわ
ち、地区委員会、地委委員会等を組織しなけれ
ばならない。
その構成は、
一 全国的領域では、党大会——中央委員会
二 地区的領域では、地区党大会——地区委員
会
三 個々の工場・事務所・職場では、細胞会議
——細胞委員会
四 各級党機関は、党の各級組織の意思決定とその
実践的遂行の全責任を負う。
なお、各級党委員会は、党の任務遂行のため、
機関紙誌、労働運動、学生運動等の専門部及び戦
線委員会を置く。
五 細胞
党の基礎組織は、工場細胞を中心とする諸細胞
である。
細胞は三人以上によつて成り立つ。工場などに
一—二名の党員しかいない場合、これらの党員は
近接の工場細胞などに所属する。工場等で仕事を
していない党員も原則として近接の工場細胞に所
属する。

細胞は党の基本的任務の遂行機関であり、その
活動の場は工場大衆の中にある。細胞は工場内支
配機構、国家権力に対する大衆の反乱を導き出し
、これと一体となり、その先頭に立つて、指導権
を確立する。
細胞は、そのために、共産主義の宣伝活動を行
い、新入党員を獲得し、党文章の作成配布、工場
新聞発行、工場内の労働者教育等の活動を不断に
行い、工場内に不拔の政治勢力を築くため全力を
つぎ出す。
細胞は、その指導部として細胞委員会を選ぶ。
六 地区委員会
地区委員会は、地区の工場細胞を基礎として、
自らを構成する。地区委員会はその地区の党組織
全体の指導部である。
地区委員会は工場細胞の活動の調整、新たな工
場への工作、地区レベルでの政治勢力のためのた
めのフラクション活動等の任務を遂行するため、
常任委員会をおき、また必要に応じて、専門部及
び戦線委員会を置く。
七 地区党大会
地区委員会は定期的に地区党大会をおこなう。
八 党大会
党大会は原則として年一回中央委員会により召
集される。また必要に応じて臨時党大会が開かれ
る。代表の基準は中央委員会もしくは全国協議会
により定められる。
九 党綱領及び党規約に関する諸問
題、一 一切の全面的な政治的組織的問題、二 中央
財政に関する諸問題の決定を行い、三 中央
委員会を提出する。
十 中央委員会
中央委員会は党の最高指導部である。
中央委員会は党を代表し、政治的組織的活動全
体を指導し、中央機関紙誌の編集局を設置し、党
財政を管理する。
中央委員会は党大会によつて決定する。
中央委員会は、任務遂行のため、常任委員会を
おき、また必要に応じて、専門部及び戦線委員会
をもつづける。
十一 中央委員会
中央委員会は必要に応じて、全国協議会
を開催する。
十二 党の運営
党は革命的集中制を原則とする。

党は、革命的なヘゲモニーをもつ指導部の指導の
もとに任務を遂行し、意思統一をおこなう。指導
部は、適切な方針の提起と指導によつて同志的信
頼を固め、党員の自発性を最大限に引き出さな
ければならない。そうしてこそ、全党員の任務の断
固たる遂行を保障し、また十分な協議を通じた固
い意思統一を保障することができる。
党の任務の遂行及び意思統一に際しては、少数
は多数にしたがい、下級は上級にしたがい、全地
区は中央にしたがふという原則をもたなければなら
ない。
党の指導部は、常に党員に接して意見を聞き、
最も厳しい点検を受けなければならない。
党員は、党組織の決議にたいし異議があれば留
保することができる。上級機関に批判と提案を行う
ことができる。
自由な主張・批判・提案と、規律ある態度・行
動とは、全ての党員が党の目的を自覚し、たがい
に同志的信頼をもち、努力してつくりださなけれ
ばならない党風である。
十三 党の規律
党の規律は、党規約前文を最高原則として表現
される。
党の任務遂行にあつて、その資格を問われる
者は、それぞれ細胞・地区委員会・中央委員会
・党大会のレベルにおいて、党議員、公開議員、
地位階級、観察、除名等の措置がとられる。
観察期間中の党員は、再教育を受け、党員とし
ての諸権利をもち、
除名は原則として党機関紙上に公開される。
十四 党財政
党の基本財政は党費、特別募金、党事業収入そ
の他によりまかなわれる。
党費の額は党大会ないし中央委員会によつて決
定される。
党費の納入は党員資格の重要な要件である。

世界革命 4号 第二回党協議会 決議決定集

近 日 発 売
△ 総括・情勢・任務テーゼ
△ 共産主義者党規約草案

「業務員制度」打破の闘い

自治体における身分差別撤廃をめざして

全の闘いのみならず、自治体労働者一〇〇万もつと

も大きな組織である自治体の中における労働者を分析する身分差別の撤廃闘争の報告をのべていこう。

この闘いは、差別闘争というものでなく自治体の中におけるあらゆる闘いをいかに推し進めていくかを問う闘いでもある。たとえば、各区分に公然と行われている自衛官募集「徴兵制」の問題、コンピュータ導入における合理化等といったものも、いかに闘いを推し進めていくかである。

業務員制度とは

まず最初に、この闘いの発端となった「業務員制度」とは何かを簡単に説明すると、普通いわれる一般職員は都の採用試験によつて合格し、各区に配転されるものであり、それに対して業務員とは各区において職員の人員不足解消のために区独自で採用されるものである。ただし、一般職員と業務員の違ひは、第一に採用形態の違ひによつて給料表が一般職員と差別され、第二に職場の中における差別である。たとえばS区役所では業務員が多いが職員不足であり、そしてこの給料表における差別、職員名簿、出勤簿異動等においても公然と差別が行なわれている。

闘いの開始

まず、われわれは闘うにあつて多くの業務員を集合に組織することから活動を開始した。そして、S区役所青年婦人部も協力させた。(青年婦人部は組合と同じようにスケジュール闘争にマイボツしているが、組合よりも戦闘的であり、日常活動をよくやっていた。)

一月二六日第一回業務員集会をおこなう。参加者が組合組織集のものかと思ひするものが多く、これが後のべる組合員の組合執行部に対する不信につながつていく。

集会は、この集まりの主旨から始まり、普段職場のなかにおいて感じている業務員であるが故の差別について話し合った結果、一、出勤表をいかに正確にせよ、現在業務員だけが下の方に配列されること、職員名簿を回収し新たなものをつくられ、この二つの差別問題が出され、この問題を当面の闘いとして取り扱ひたいと請書を組合に提出することが全員一致で決められた。

一月二〇日、第二回業務員集会(第一回より約二倍の参加者)集会は、都側の回答をめぐつて積極的、建設的な意見の中で進められていった。そして、参加者全員から「試験を受けたい」と「〇〇転職を」という結論でまとまる。なかでも、一〇〇人受けて七〇人合格した場合、合格者と不合格者の間に同じ労働者でありながら、又、そこに新たな差別を生みだすからである。(現実には、東交の合理化の際に、東交女子車掌の転職試験を行った際、六〇％しか合格せず、落ちた者の中には、精神的苦痛から離職者も出る。)

二月二日、公開質問状の回答が期日まで得られなかったため、再度ビラをだす。また第三回「差別を考へる会」の集会呼びかけも同時に掲載。

二月二日、公開質問状の回答が期日まで得られなかったため、再度ビラをだす。また第三回「差別を考へる会」の集会呼びかけも同時に掲載。

闘いの教訓とこれからの課題

闘いは一歩前進した。そして多くの教訓をその中から生みだした。組合については、この問題に対する組合独自の見解を明らかにせず、先の二つの要求の区側との交渉時における区側とのなれ合い等それはまさに組合が「労働者の権利を守る」機関から「労働者を売り渡す」機関に移り変わったことを自ら暴露した。又その上部機関である都労中央は、都知事が率いる新美濃部であるといふこと、あつた。

この集会では、一応都側案については都労中央委員会の見解がでたこと、この中で落着く。そして私達達先に掲げた二つの差別問題を断固撤廃していかうことを最大闘争とすることを決定。またこの二つの問題をめぐって都側案に対して、他の業務員の意識調査のためアンケートを実施することを決める。アンケートを約一〇〇通各職場の業務員中心に無差別に配布。「差別を考へる会」は今までの参加者全員でアンケート活動をする。

京浜労働学校を開設

京浜地区において、ついに労働学校が設立された。

第一期の第一回として、講師に成島道官氏をむかえて、「七三年春闘の課題」について学んだ。

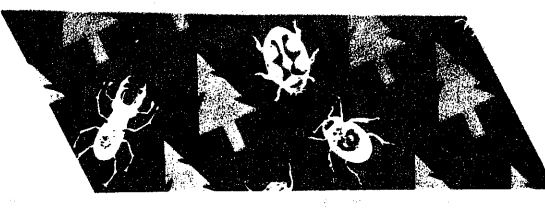
治党派の没落という政治環境の春闘であること、三、公務協のスト権争問題が主眼テーマの一つとして、取り上げられていること、四、国際連合情勢の危機が深まり、田再切り上げという、日帝の危機が、極めて深刻化していること、下の春闘であることが報告された。

かに大衆を組織し闘っていくか、冒頭にのべた通り徴兵制、部落問題等を職場の中に築き、そして地域の人々と共に闘争を推し進めていくかということも今後の課題である。

三、新美濃部都政に対する矛盾を自治体労働者の中にいかに暴露していくかこれもこれからの闘いである。

二、二面からうごうご(一) 問「これからどうしてビラをだすだけが続いてきたのですか。」 新井「いえ、私の主人の友人が弁護士を紹介してくれました。地位保全の仮処分申請をしました。それから、ビラを続ける中で工場労働者の人達と知り合い、その人達の協力で、私の解雇撤回の決起集会を開いたり、いろいろな臨時労働者の人達と知り合う中で臨時労働者やパートの問題を取り組んできました。又、私の働いた工場は青物横町にあるのですが、そのそばにフルトサーで有名な加藤製作所があり、そこで正社員になる前に解雇された田中さんと二、二年間わたつて解雇撤回を闘っているパートの斎藤さん達と地域の相互の協力をよくして闘っています。」

問「現在の裁判はいつ開かれますか。」 新井「四月一七日午後一時より地裁でやります。」 問「どうもいろいろありがとうございます。これからもがんばって闘っていきます。」



以上のような組合の態度に対して一般組合員は前からある組合不信が更に増した。

自治体の中のある闘い、

問「会社の組合は新井さんの問題に關してどんな対応をしているのですか。」

新井「三月一日に加藤製作所の田中さんや、ソニーの斎藤さんと共に、交流集会を開いて南部地区の解雇闘争を闘う人や臨時やパートの劣悪な条件下で闘う人たちとの連帯の輪を広げ、闘いの軸を職場の中に作り解雇を許さないよう、職業病や労災を生み出さないような職場を准社員、パート、臨時、本工場の職場の闘いの中から作りだすために闘う連帯を作つていこうと思つています。又、臨時連絡代表者会議をもつと云々、パート、臨時工の開放された場として作つていこうと思つています。」

問「臨時代表者連絡会議ではどのようなものなのか、よかつたら話してもらえますか。」 新井「臨時代表者会議とは、臨時やパート問題を闘う人々が、主に団体として、活動者として主体的に

日出勤をしなければ、食えないという規程給はあつた。これを職場労働者のほとんども感じていたことが指通され、春闘では、職制、職員委員の追及を通して、職場闘争組織を、一歩一歩、形成していく決意が表明された。

五面へつづく

73年春闘をいかに闘うか

遠藤昭雄

七三年春闘の 全般的特徴

二万四前後の大幅賃上げ、年金制度の改善、さらには官公労働者のスト権獲得などをかけた今年春闘は、三月末の統一行動を突破口にして、四月下旬の「交通ゼネスト」にヤマ場を設定するといふ形で、開始されようとしている。「インフレ」の春闘といわれ、「経済構造を変えさせる」(総評)といわれる今年春闘は、その背後にきわめて重要ないくつかの特徴をもっている。

今年春闘の課題の中に、年金問題、時間短縮、公務員スト権獲得などいわゆる「制度要求」が大きなウエイトを占めているのが、ひとつの特徴であるが、これは、いまでもなく、昨年総選挙において社共が大幅に議席を復活しているからにはかならない。かつてマンネリ春闘を打破すべく「公害闘争」を打ち出した総評が、こんどは社会党の議院進出に気をよくして、「年金メーデー」や「年金ゼネスト」によつて少しでも新味をだそうとしているのである。公務員スト権獲得にしても、五月にILOで公務員スト権問題を審議するにあわせて、いわば対政府交渉への圧力闘争として設定されているにすぎない。

こうして、今年春闘のペースは再び総評のヘゲモニーが回復したかにみえる。たがし、現在の底流に流れる特徴とは、総評民同のそうした政治的取り引きを許さぬような重大な局面が生じつつあるといつてよい。

すなわちそれは民間企業、公企体、自治体等における全社会的な、いっそう下ラスタックな合理化攻撃の進行である。とりわけ公企体においては、たんなる生産性向上にとどまらず、大量不当処分、活動家に対するピンチ上げ解雇攻撃、国家権力の直接介入といった政治攻撃、組織攻撃としての性格をますます強めている。

また民間部門においては、大企業における間接部門を軸とした省力化、全面的な労働強化は勿論のこと、とくにその下請関連企業では親企業と生産体制・労務管理体制を一体化させるための支配体制の再編が相次いでおり、いすれもきわめて露骨な形をとって進行している。総評民同はこれら一連の合理化との対決は完全に回避したまま、「制度要求」と称して、議会の対政府交渉の圧力闘争へのすりかえにやむをえずなっている。そして、こうした深部における合理化攻撃の進展は、いままや同題JCをも揺るがし始めている。しかも、こうした合理化の進展に加えて、ますますいっそうインフレの激化は、労働者の生活をきわめて直接的におびやかすにいたっており、これがまた、「調整インフレ論」を認める同盟指導部に対する下部の不信、突上げに拍車をかけてい

る。去る一月末の同盟大会において、執行部は相次ぐ代議員の突上げにあい、かくて「口先だけで」も「生産性を上回る賃上げ」とまで言わざるを得なくなっている。

われわれは、今年春闘の底流である大規模な合理化の進展、国家財政によるインフレの促進と大衆収奪、さらには国家による自治体や教育の統合化という特徴に、最大限の注意を払う必要がある。これらにみられる動向こそは、現在の国際通貨体制の崩壊、国際的為替・通商戦争の中で日本帝国主義が死をかける攻撃の環に他ならない。

階級闘争の焦点

一 公企体における 組織攻撃

まず、現在の合理化攻撃の社会的な焦点の一つは、いづれでもなく、国鉄。郵便を軸とする公企体である。

すでに国鉄では、財政赤字を理由として、二万の大規模な合理化、マル生攻撃がかけられ、これに反対する闘争が長期にわたって展開されてきた。それは鉄路解体闘争、さらには「順法闘争」や「ATS闘争」にみられる事実上の管理闘争にまで発展してきている。そしていまや、つい最近の国鉄中野機関区にたいする官憲の直接介入にみられる如く、当局および国家権力は一体となつて、こうした現場の闘争を徹底的に弾圧するためのドサクサを開始している。

また、このような事情は、全通においても基本的にかわらない。国鉄に一步遅れて開始された全通版マル生攻撃は、組合脱退者による二組結成策動をブツとして、全国的に「標榜」実施攻撃となつて吹き荒れている。春闘を目前にして郵政当局は、組合統制をはかるにのりこえて展開された昨年未闘争にたいし、狂気の報復をおこない、空港・静岡・国立・代々木局などの戦場の拠点にたいしては免職を含む大量ピンチ上げ処分をもつて臨んでいく。

全通民同の犯罪性は、このようなきわびげない現場への攻撃と対決を全く回避している点にある。全通民同にとつて反合闘争は、種々の諸派系闘争の二項目でしかないばかりか、国家権力の介入にたいしては、これを一部挑発分子の「小児病闘争」の結果として、現実の組織攻撃にたいしては、当局・国家権力の不当性を容認するといふ、インフレ論である。

だが、公労協に吹きさらす合理化攻撃は、決して「制度要求」によつて歯止めがきける性格のものではない。それはまた決して単なる「生産性向上」運動のでもない。問題はその実態だ。まさに現在の生産性向上の内容とは、大規模人員合

理化、現業部門の下請化を推進するために、国労や全通に存在する現場の戦力そのものを根底からひねりつぶすことに向けられており、このことは、攻撃が現実には、組織結成、一組内部の戦力的活動家へのねらい、さらには当局の告発による国家権力の直接介入といふ、文字とどりの組織攻撃、政治攻撃となつていくことをみれば、一目瞭然である。

それはかりではない。自治体における国民総皆習制をねらつたユニバーサル導入、あるいは大学管理面への「筑波大学方式」の導入や義務教育に対する国家統制の大幅な強化など、官公労働者にたいする攻撃はますますエスカレートしようとしているのである。まさにこうした全体の動向こそは、日本帝国主義の神経網を国家的に統合し、その意味で支配体系を完成させようとする意味をもつものに他ならない。

民間企業における 合理化と 下請企業の再編

さて、次に民間企業では、合理化はどのように進展しているか。

それは一言でいって、とりわけ自動車、電機などの完成品部門において激しさを増しており、しかもその関連企業は、あおりをまともにくらつて合理化の焦点となつていく。

たとえば日産自動車では、今年春闘の課題として「時間短縮・週休二日制」があげられているが、しかしその実態たるや、資本・御用組合が一体となつた合理化そのものである。現に組合側は「現行動務制による年間労働時間を確保することを労働者確認」した上で妥協しており、あくまで資本の生産性向上が前提となつており、それはかりでなく、「時短」を口実として、逆に、出勤率向上運動、休日の強制、労働密度の強化、就業時間前の職場体検の強制、さらには事務系間接部門の残業規制などといった具合に、労働強化を主軸とする攻撃が次々と打たれてきているのである。

そしてこのような「時短」にともなう一連の攻撃は、すでに三菱電機、日本IBMなどにおける経験を通じて、資本の攻撃の「定石」になつていく。それと同時にわれわれが目すべきことは、「時短」攻撃が、実質的には賃金の統制と一体化してきていることである。すなわち、日産資本・組合は、週休二日制の交渉の妥協を春闘期にタイムリングをあわせることによつて、ヘースアップをおこなうことをねらつたのである。日産の賃金体制が時間外賃金に著しく大きな比重を置いていることを考えれば、「時短」は、賃金の切下げを意味す

減によつて生活を左右され、残業や休出に頼らざるを得なくなるであろう。

このように、自動車をはじめとする完成品部門の巨大資本は、これまで輸出に依存する度合いが高かつただけに、現在の国際通商戦の激化という事態の中で、異常ともいへば危機感にさらされている。そして、その合理化の一層の進展は、関連下請企業の系列化・再編をひきよけているのである。

すなわち、下請企業での合理化は、一言でいって、生産体制及び労務管理を親企業と直結させようとするものにはかならない。それはまず、作業長制度の導入に端的に示される職制支配体制の再編とあらわれ、また、新鋭機械の導入と生産部門の切捨て—これは地方への工場移転と一体化しておこなわれている—、間接部門の合理化、そして労働時間の大幅な延長、ラインのスピード・アップなどという攻撃としてかけられてきている。

しかも、七〇年に新日鉄が成立して以降本格化した鉄鋼カルテルは、とりわけ中堅部品企業に重大な打撃を与えることになつた。つまり、鉄鋼独占体制に基く鋼材価格の相次ぐ引上げにも拘らず、下請企業はたえず親企業から買いたたかれており、両者の間にはさまれてその負担を大きく背負いつつこたになつたからである。

以上述べたように、民間企業の合理化について大まかにみれば、同時にわれわれは、こうした一連の事態が逆に現場での大衆的反抗を徐々に呼びよせているといふ新たな事実にも注目しておく必要がある。

これまで民間巨大企業は大規模な新鋭設備の導入によつて高度成長をはかつてきたのであるが、七〇年以降の段階ですべて設備更新をやりおえてしまつており、もはや賃金上昇を技術的合理化で吸収する道は断たれはじめていく。したがって現在では、きわめて露骨な形での労働強化・賃金統制といった手段に訴ふる以外になんかしてきており、こうした性格の攻撃が、職場内部に自然発生的な労働者の怒りを広げ呼びよせていくのである。

同題JCが内部から動揺を開始している底流、それ以外のなにもでもない。そして現場労働者は「時短」とは全く逆で、ますます時間外労働の増加を求めている。

(四) 四面からつうく

同題等の御用組合自身が、自らの組織防衛のために、最低限の闘争を組織するをえ、それによつて、最低限の、各職場の一定程度の流動化を、自ら引き起さざるを得ない矛盾を、最大限に鋭く突き、討論は、各職場の状況が、それぞれ異なる中で、いかに総評、同題、IMF・JC等によつて年中行事化されてきた春闘を、総評・線を形成しながら、われわれの職

には、このような現在の合理化の特殊な性格が横たわつておる。われわれがこの新たな事実にも注目しつつ、職場の底辺から大衆的反抗を組織しうる基盤が作りだされつつあるといわれなければならない。

反合・反職制闘争の 潮流をつくりだせ

以上述べたように、今年春闘の背後に存在する合理化攻撃の実態について、公企体及び民間企業を中心にみてきた。

われわれはこの春闘の中でなしとげなければならぬのは、現実の合理化攻撃に真正面から対決する力を、個々の職場の中に大衆的につくりだせることである。そして果敢な反合・反職制闘争の展開を通じて、その力を社会的な潮流へと押し広げること、われわれがめざす日本革命の戦略配置—公企体・自治体・中小企業との闘争展開によつて巨大独占資本を攻囲する戦略配置—を、一歩も二歩も進めることである。

まず、わが全通戦線を軸とした公労協の反合闘争の展開こそ、最大焦点の一つである。われわれは、ここにおいて、既成指導部・カンパニア諸派の組合主義と対決しつつ、職場の中に巨大な反合闘争潮流を築きあげなければならない。現にまたこれまでもそうした方向を一貫して追求してきた。

またこれと並行して、わが自動車、電機戦線のとりわけ中堅企業での反合・反職制闘争の展開が決定的に問われている。われわれは、行動委を対しても、いっつかの拠点工場において、行動委を先頭にして種々の統一戦線を組む、大衆的反抗を組織することによつて、革命的に広げざるを得ない。

そして最後に、巨大組立工場においては、ようやく開始された大衆的流動を生かしつつ、職場労働者を広汎に結集し、着実に行動委建設を推進することだ。

このような個々の反合闘争の展開とその地域的結合を精力的に推進する中から、わが行動委運動は真にうちたえられたものとなるであろう。

場闘争組織を強化せしめていく絶好のチャンスをたらしめるには、いっつかの工場において、参加した多くの労働者から活発な問題提起と重要な論議が次々と出され、これらは今後同回の労働学校を通じて、参加者の努力で一つ一つの問題を詰めていくことを確認し、第一回労働学校を終えた。

現在の世界通貨危機

七一年二月のSMI会議で成立した国際通貨基金を二筆に崩壊させ、再度のマルク・フランス・ユーロ・日本の為替市場の閉鎖を通じてなされる今後の通貨危機は、戦後の通貨危機——第二次世界大戦後の資本主義の世界信用体制——の崩壊が新しい段階にはいりつつあることを示している。

第一段階は、六八年三月一七日のドル・金交換の事実上の停止から七一年八月一五日のニクソン新経済政策によるその公断たる停止にいたる段階である。これは、ドル・金交換が事実上放棄されたにも拘らず、それが名目的に維持され、これを軸として戦後通貨体制の維持を維持するために最後の努力がはられた時期、しかもかかじんのアメリカがこの「国際協調」を裏切つて国家財政と国際収支の赤字たれ流しによる国内景気のテコ入れ政策に転じた時期として特徴づけられるべきである。

第二段階は、七一年八月一五日から同年二月のSMI会議を経て今回の通貨危機にいたる段階である。これは、西ヨーロッパ諸国と日本がこのアメリカのスト破り——国際協調破り——を既成事実として承認し、これに応じて国際為替体系を調整するとともに、その維持をアメリカに約束させた時期、およびアメリカが口先ではこれを受入れながら、実際の行動ではより大規模にスト破り——国家財政と国際収支の赤字たれ流し——を続けた時期として特徴づけられるべきである。

第三段階の特徴は、今回の通貨危機をもつては、第二次世界大戦後の国際通貨体制は、一九世紀以来のポンド体制——いわゆる古典的金本位制——がドル資金のヨーロッパ経済へのテコ入れを支え、そして再建されたものであつて、ポンドの金交換停止は、このポンドとドルの分業関係の崩壊をたがつてきた資本主義世界経済からの中心信用貨幣の消失を、意味していた。

このように、今回の通貨危機と共に始まった戦後通貨体制崩壊の第三段階は、ドル・インフレ・ユーロによって主導される世界為替相場体系の崩壊と、そのもとで進行する世界インフレ・ユーロ・ユーロが、まさに第二次世界大戦後の通貨体制崩壊の基本的様相にはかならぬことを明らかにしつつある。

戦前の世界通貨危機

再建資本体制として知られる第一次世界大戦後の国際通貨体制の崩壊の様相は世界経済の公然たる分断、それによ来る三〇年代の大不況——賃金・物価の大低落と、大量失業であつた。

当時の中心通貨——ポンドの金交換停止は、ポンドが世界の信用貨幣から大英帝国の勢力圏の中心信用貨幣に転化すること、したがつてこの勢力圏が巨大な通貨ブロック——スターリング・ブロック——に転化するを意味していた。



国内景気第一主義の経済テコ入れ政策、国家財政の赤字とドルの平価切り下げを手段とする孤立主義的・閉鎖主義的な景気政策として特徴づけられるべきである。

大不況とナチス反革命

だが、このアメリカの孤立主義的景気政策は、三〇年代の場合とは違つて、現実には孤立主義政策を意味せず、かえつて資本主義世界経済に対するアメリカの主導権を回復させるのである。金交換停止以後といえども、依然としてドルが資本主義世界の中心信用貨幣の地位を維持しているからであり、したがつて、ニクソンの赤字たれ流し政策は、資本主義世界経済政策に対する中央信用貨幣の膨脹政策、ドル・インフレに主導される世界インフレ政策を意味するにすぎないからであり、また西ヨーロッパ諸国や日本は、これを統制する手段も経済力もあつていないからである。

しかも、アメリカの支配階級は、この世界インフレ政策によつて失ふべきものはなにもない。アメリカの対外資産は工場や鉱山等の現実資本に投下されているのに対し、西ヨーロッパ諸国や日本はアメリカ債権は、擬制資本——証券といふ

いまや、攻撃の矢面にたたきられているのは、西ヨーロッパ諸国であり、とりわけ日本なのである。

第一次世界大戦後の国際通貨体制の崩壊は、世界経済の公然たる分断、それによ来る大不況——賃金物価の下落と大量失業を通じて、西ヨーロッパ諸国の戦後民主主義体制——ブルジョワ・プロレタリア階級の組合的・議会的取引き体制——の経済的基礎を突き崩し、戦後階級闘争の革命か反革命かの決着を迫らせた。

「人民戦線」派の位置

この政治危機をめぐる階級闘争は、その中心圏ドイツにおいて、まず、財界と結びつき、官僚的執行権力独裁を生み出した。大統領緊急命令を乱発して現状維持に狂奔し、経済的破綻のすべての犠牲を労働者人民大衆に転嫁しようとしたブルジョワ階級内閣が、それにかならぬ。

これに対して今回の国際通貨体制の崩壊によるブルジョワ支配階級の国内攻撃は、三〇年代のような大不況切り下げや大幅賃金切り下げや農民その他小ブルジョワ階級の崩壊という形態ではなく、所得政策等々の賃金統制をもつてインフレ収奪

それは何を意味するか

名の紙切れ——に投下されているにすぎない。かくして必然の結果として国際為替体系の崩壊の崩壊とともに進行する世界インフレは、単にアメリカの世界トラストに巨大な投機利益をもたらすといふばかりでなく、「アメリカ株式会社」の対外バランス・シートを自動的に改善するからである。

そしてこうしたアメリカインフレの世界化の過程は、同時にまた、アメリカのスタグフレーション経済の世界化の過程でもある。

たしかに、第二次世界大戦後の通貨体制——ポンド体制——を崩壊に追い込んだのは、大陸西ヨーロッパ諸国と日本の急激な重工業的発展であり、それによるアメリカ経済の圧迫であつたが、ドル・金交換の停止とともに事態は逆転してアメリカが積極的な攻勢の地位に立つてくること、またそのための戦略的高地を一人占めにしていることをわれわれは知らなければならぬ。

ニクソン新経済政策以降の事態の進展は、このことを何よりも明確にものごとがたつてきている。

を旗印とする執行権力・市民ブロックと、その粉砕を旗印とするナチ・共産党ブロックである。そして三〇年代初頭のナチス党の蜂起戦略の根本は、右翼保守党との連合内閣による現状維持というエサによつて執行権力・市民ブロックを分断し、共産党を孤立化させて粉砕することにも、返す刀で市民を粉砕し、軍部・官僚財界の諸勢力を鎮圧して自分に屈服させ、インテキ革命を旗印にするナチス党の党独裁を実現するという点にあつたのである。

第二に、市民にかつてつて組合的・議会的左翼の中心勢力になつていたフランス共産党・CGTは、こうしたプロレタリア反乱を前にして、直ちに執行権力独裁と同盟——現存秩序の維持防衛のための同盟——へと突進した。

第三に、この同盟の共同の政治戦略は、反乱しつつあるプロレタリア大衆とブルジョワ支配階級との対立を、組合的・議会的領域の内部における「ドゴール独裁と共産党・CGTとの擬制的対立」にすりかえられ集約することであつた。

三〇年代には、こうした政治配置は、プロレタリア人民大衆の現状打開の革命的エネルギーをインテキ革命へと結集するナチス反革命への過渡的政治配置として生まれた。

だが、今日の通貨体制崩壊が、三〇年代のような公然たる世界経済の分断と大不況ではなく、世界インフレと為替戦争を基本形態にするという事情が、執行権力独裁に対するプロレタリア大衆反乱を、いまやかつての市民になりかかつて組合的・議会的闘争にすりかえようとするインテキ共産主義者と、これを資本主義打倒の革命闘争——工場占拠・二重権力・武装蜂起のソビエト革命——に発展転化させようとする真の共産主義革命党との闘いに集約させようとする意味である。

実際には、フランス五月革命を先頭とする六八—一九九年の最初のプロレタリア反乱によつて明らかに不意をうたれたブルジョワ支配階級とインテキ共産主義の紳士階級は、今度はこの教訓を生かして、ふたたびプロレタリア反乱が爆発する前に、それに対する予防手段として、擬制的対立劇を演出しつつある。フランスからはじまつて最近日本にも流行しはじめている社共連合の「人民戦線」芝居が、いづれまでもなくそれにはかならぬ。

三〇年代の場合とはちがひ、ブルジョワ執行権力独裁と共同で演出されているこの安楽椅子は、今日の通貨体制の崩壊のなから生まれてくるべきプロレタリア革命に対するブルジョワ反革命の基本的形態となりつつあるという事実を、われわれは明確にしていなければならぬのである。

すなわち、まず第一に、六八年五月のフランス一千万労働者の工場占拠ゼネストは、職場・市場の労働者・大衆が組合的・議会的闘争のりこえ

福原健夫